

第9回

全日本カッター競技大会

5/16(日) 9:00am - 4:00pm

神戸商船大学沖

主催 全日本カッター連盟

第9回全日本カッター競技大会

- 主 催 全日本カッター連盟
- 主 管 神戸商船大学
- 後 援 神戸市教育委員会
神戸新聞社
デイリースポーツ新聞社

- 協 賛 川崎汽船株式会社
大阪商船三井船舶株式会社
昭和海運株式会社
ジャパンライン株式会社
日本郵船株式会社
山下新日本汽船株式会社
- 日 時 昭和40年5月16日(日曜日)
午前9時から午後4時まで
- 会 場 神戸市 神戸商船大学沖

第9回全日本カッター競技大会を迎えて

神戸商船大学長 小 谷 信 市

新緑薫る5月、ここに全国の海事関係の大学学部から選りすぐった多数の諸君を迎えて、第8回全日本カッター競技大会を開催することは、誠に慶祝に堪えないところであります。

われわれの大学において、程度に差はあるがそれぞれ貴重な時間と経費を割いて舟艇に関する教育又は実習訓練を課しつつあることはご承知のことです。

諸君は更に課外活動の面についても、これに深い関心を抱かれ、カッター訓練を通して心身の鍛練と術技の研鑽に精進されていることは、誠に頼母しい限りでありまして、深甚の敬意を表する次第であります。

而して諸君が精魂の限り、妙技の全てを傾注してその覇を競われるのは勿論、お互が他大学の心技に学び、その長を採り己の短を補って将来に備え、更に共に海に生きるお互の理解と友情を深められることに思いを寄せると、本大会の意義は誠に広くかつ大であることを痛感する次第であります。

どうか選手諸君におかれては、本大会のもつ意義を充分認識され、終始フェアプレイの精神に徹し、正々堂々各自の力を十二分に発揮され、有終の美を収められることを希望して止みません。

最後に本大会の育成に御協力を賜りました関係各位に対し深甚の謝意を表し、併せて今後一層の御支援をお願いして、ご挨拶といたします。

大 会 役 員

会 長	神 戸 商 船 大 学 学 長	小 谷 信 市
副 会 長	神 戸 商 船 大 学 学 生 部 長	平 勇 人
役 員	海 技 大 学 校	明 渡 範 次
	海 上 保 安 大 学 校	八 重 樫 勉
	鹿 児 島 大 学	肥 後 伸 夫
	水 産 大 学 校	橋 本 市 雄
	東 京 商 船 大 学	飯 島 幸 人
	東 京 水 産 大 学	佐 々 木 幸 康
	長 崎 大 学	麻 生 幸 則
	日 本 大 学	添 田 秀 男
	防 衛 大 学 校	奥 田 武
	三 重 県 立 大 学	細 川 鉄 雄
	神 戸 商 船 大 学	西 原 義 久
	神 戸 商 船 大 学	山 口 篤 利
審 判 長	神 戸 商 船 大 学	杉 浦 昭 典

大 会 委 員

委 員 長	樋 口 享 弘	配 艇 甲 斐 田 正 治 郎
總 務	立 屋 敷 靖	警 戒 保 安 早 川 俊 洋
庶 務	劍 持 勝 彦	審 判 齊 藤 興 紀
外 廣 報	提 一 晃	出 発 決 勝 加 藤 計 太 郎
接 待	山 本 哲 也	記 録 長 池 谷 川 治
會 場	石 川 浩 三	管 理 池 田 堯
運 營	安 田 勝 三 彦	宿 泊 篠 原 英 樹
進 行	立 屋 敷 靖	行 食 梅 島 裕
通 信	東 藤 泰 昭	山 田 豐 三 郎

出 漕 ク ル ー

海 技 大 学 校

(註) ◎印は主将 ○印はマネージャー 以下全

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	明 渡 範 次	E・2	160	51	弓 削 商 船 高 (香 川)	
艇指揮	◎ 佐 伯 實 次	N・2	173	64	鳥 羽 商 船 高 (三 重)	
艇長	金 沢 藤 行 信	N・2	168	74	富 山 商 船 高 (富 山)	
1	高 峰 松 忠 宏	E・2	170	62	富 山 商 船 高 (大 阪)	
2	○ 峰 松 忠 宏	E・1	171	75	富 山 商 船 高 (岡 山)	
3	井 田 恭 治	E・1	165	65	富 山 商 船 高 (岡 山)	
4	吉 田 恭 善 也	E・1	160	64	富 山 商 船 高 (兵 庫)	
5	池 田 正 直	E・1	165	49	富 山 商 船 高 (千 葉)	
6	久 藤 隆 幸	E・1	172	60	富 山 商 船 高 (山 口)	
7	佐 山 本 隆 幸	E・1	165	52	大 船 川 水 産 高 (秋 田)	
8	山 本 端 男 二	N・1	166	55	大 船 川 水 産 高 (東 京)	
9	豊 島 子 洋	N・1	178	70	安 房 山 水 産 高 (大 阪)	
10	金 子 尚 之 失	N・1	162	58	安 房 山 水 産 高 (大 阪)	
11	瀬 戸 田 益 要	E・1	167	64	富 山 商 船 高 (大 阪)	
12	田 中 益 要	E・1	168	65	富 山 商 船 高 (大 阪)	
補	多 野 寺 信 義	E・1	163	58	富 山 商 船 高 (岩 手)	
〃	小 野 寺 信 義	N・1	163	58	富 山 商 船 高 (岩 手)	
〃	馬 場 一 郎	E・1	165	57	富 山 商 船 高 (富 山)	

海 上 保 安 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	八 重 樫 勉	E・4	169	63	海 城 高 (東 京)	
艇指揮	伊 藤 信 普 隆	2	162	51	三 養 基 高 (佐 賀)	
艇長	山 脇 義 人	2	164	56	三 養 基 高 (福 島)	
1	佐 藤 義 人	2	164	57	磐 城 青 江 高 (福 井)	
2	笠 山 島 晃 治	E・3	164	57	紫 野 高 (京 都)	
3	森 征 四 郎 久	N・4	167	62	紫 野 高 (京 都)	
4	村 上 克 一	E・3	165	61	山 口 高 (島 根)	
5	長 井 孝 一	2	175	64	玉 川 高 (東 京)	
6	◎ 小 林 建 夫	N・3	172	64	墨 田 川 高 (千 葉)	
7	松 永 敬 典	W・3	176	66	出 水 高 (鹿 児 島)	
8	岡 宣 昭	N・3	175	70	日 吉 ケ 兵 高 (京 都)	
9	金 田 徹 武	E・3	172	62	尾 道 北 高 (大 阪)	
10	池 田 利 武	W・3	171	63	隱 岐 高 (島 根)	
11	川 原 忠 彦	N・3	167	63	出 水 高 (鹿 児 島)	
12	田 原 信 朝	2	167	63	玉 名 高 (熊 本)	
補	○ 児 林 秀 雄	2	169	58	豊 浦 高 (山 口)	

出 漕 ク ル ー

鹿 児 島 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	肥後 伸夫	増・3	172	65	富田 林高	(大阪)
艇指揮	禎田 栄	増・3	168	63	富田 部高	(山口)
艇長	岡口 修望	漁・2	172	59	宇武 雄高	(佐賀)
1	井泉 賢三郎	漁・3	163	56	天草 草高	(熊本)
2	関根 正雄	漁・2	170	62	氏家 家高	(栃木)
3	上山 健一	漁・2	170	64	甲南 南高	(鹿児島)
4	柿本 尚敏	漁・2	167	68	根室 室高	(北海道)
5	田坂 昭二	漁・3	174	65	杵築 築高	(大分)
6	中上 尚雄	漁・3	176	70	苅岐 岐高	(長崎)
7	小田倉 征真	漁・3	169	64	日立 第一高	(茨城)
8	後藤 宏昭	漁・2	172	66	日分 上野ヶ丘高	(大分)
9	原田 川一	漁・3	165	55	大分 習館高	(福岡)
10	◎ 高芥 藤裕	漁・3	165	55	宇熊 本高	(熊本)
11	○ 齋藤 友治	漁・3	171	58	熊猷 館高	(福岡)
12	齋藤 勲	製・2	165	63	修都 城泉ヶ丘高	(宮崎)
補	齋藤 昭	漁・2	166	60	大分 上野ヶ丘高	(大分)
〃	合志 宏	漁・2	170	60	大津 津高	(熊本)
〃	佐藤 信	漁・2	170	60	大分 舞鶴高	(大分)
〃	阿部 國	製・2	168	64	白杵 杵高	(大分)

水 産 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	橋本 市雄	漁・3	165	55	大竹 竹院高	(広島)
艇指揮	長井 武司	漁・3	164	60	大國 学院高	(東京)
艇長	三浦 昭人	機・3	164	60	大國 嶺合高	(山口)
1	久松 正造	機・3	171	63	大葦 呉宮原高	(兵庫)
2	森藤 晴産	漁・3	171	60	高津 津高	(大阪)
3	齋藤 川澄	漁・2	172	67	高鞍 手高	(福岡)
4	長谷 俊美	機・3	173	63	長岡 岡高	(新潟)
5	小林 昭	漁・4	172	66	佐賀 賀高	(佐賀)
6	◎ 田中 勝昭	製・3	179	68	金光 学園高	(岡山)
7	○ 平井 靖昭	漁・4	170	68	長崎 善高	(長崎)
8	明星 憲之助	機・2	166	65	明諫 諫善早高	(福岡)
9	東田 芳次	漁・2	175	67	明諫 諫善早高	(長崎)
10	林田 俊作	機・2	165	60	石川 多門次	(愛媛)
11	石川 多門次	機・2	168	60		

出 漕 ク ル ー

防 衛 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	奥田武				
艇指揮長	◎ 長谷川 剛	海・電気4	166	65	藤丸 島 高 (福井)
1	山田道雄	海・電気4	157	60	松山南 高 (広島)
2	下入佐 紘	海・応物3	169	60	玉 竜 高 (愛媛)
3	畠山 義行	陸・電気3	168	60	横 須 賀 高 (鹿児島)
4	小林 秀樹	海・電気3	169	67	青 陵 高 (神奈川)
5	上羽 晃	海・電気4	170	65	東 舞 鶴 高 (岡山)
6	山田 哲	海・電気4	166	62	兵 庫 高 (京都)
7	亀井 隆明	海・応物3	169	63	神奈川商工 高 (兵庫)
8	金子 弘	隆・応化3	171	60	神奈川商工 高 (山口)
9	長浜 英	海・機械3	170	68	宇 部 高 (山口)
10	古沢 稔	陸・機械3	172	65	長 崎 東 高 (長崎)
11	北出 弘之	海・応物3	169	68	仙 台 2 高 (宮城)
12	中村 示	陸・機械3	168	66	横 須 賀 学 院 (神奈川)
補	○ 仲西 道昌	陸・機械3	166	63	修 猷 館 高 (福岡)
〃	中島 隆夫	海・航工4	166	62	奈 良 高 (奈良)
〃	大田 豊	陸・2	170	69	高 崎 田 高 (茨木)
〃	稻田 悟	海・2	166	63	呉 三 津 田 高 (愛媛)
〃	田中 久喜	海・2	170	68	愛 光 学 園 (愛媛)
〃	藤 沢 勝治	陸・2	173	67	取 西 高 (鳥取)
		陸・2	172	60	竜 野 高 (兵庫)

三 重 県 立 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	細川 鉄雄				
艇指揮長	滝沢 昌二	増・3	166	58	遠 尾 高 (北海道)
1	三 鬼 孝	漁・3	163	64	尾 鷲 高 (三重)
2	五十嵐 直	漁・3	162	63	白 子 高 (三重)
3	大藤 直	2	164	65	山 本 高 (大阪)
4	中西 満	2	172	64	東 淀 川 高 (大阪)
5	久賀 俊	増・3	167	63	舟 入 高 (広島)
6	渡辺 修	2	169	64	札 幌 北 高 (北海道)
7	小池 忠義	2	172	67	富 田 林 高 (大阪)
8	伊藤 光彦	2	179	74	桑 名 高 (三重)
9	◎ 浅河 武	増・3	175	63	旭 高 (大阪)
10	○ 福田 利久	漁・3	170	70	佐 世 保 北 高 (長崎)
11	西山 健	漁・3	172	66	須 知 高 (京都)
12	井本 敏昭	2	170	56	桑 名 平 沼 高 (三重)
補	小原 雄二	2	170	67	横 浜 高 (神奈川)
		2	169	61	泉 尾 高 (大阪)

出 漕 ク ル

東 京 水 産 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	佐々木 幸 康	製造4	172	63	沼 津 東	高 (静 岡)
艇指揮	八木橋 正 親	漁業4	172	65	野 沢 北	高 (長 野)
艇長	荻原 紘 二	漁業2	173	62	伊 勢	高 (三 重)
1	山本 淳	漁業3	157	60	浜 松 北	高 (静 岡)
2	早川 徹 攻	漁業3	165	58	武 蔵 崎	高 (東 京)
3	山崎 誠 一	漁業3	175	61	川 崎	高 (神 奈 川)
4	谷口 正 直	漁業4	172	73	富 岡	高 (群 馬)
5	◎ 今井 部 勝	漁業4	173	75	国 泰 寺	高 (広 島)
6	石田 中 隆	漁業3	178	72	桐 館 葉	高 (東 京)
7	菅原 裕 明	増殖3	170	67	築 千	高 (宮 城)
8	三山 裕 考	漁業2	172	67	屋和田 釧 路	高 (北 海 道)
9	和田 堯 成	増殖4	175	70	成 田 京	高 (東 京)
10	成田 義 成	製造4	175	70	文 太 田	高 (群 馬)
11	水野 義 治	製造4	164	57	太 田	高 (群 馬)
12	小川 恒 一	増殖2	170	66	舞 鶴	高 (大 分)
補	瀬戸 尚 邦	漁業2	172	66	気 仙 沼	高 (宮 城)
〃	山川 昭 道	漁業2	163	60	明 成	高 (新 潟)
〃	○ 大 矢 雅 道	漁業4	168	65	成 東	高 (千 葉)

東 京 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	飯 島 幸 人	N・4	174	64	芝 罘	高 (東 京)
艇指揮	金 植 田 峰 弥	E・3	160	54	熊 谷	高 (埼 玉)
艇長	橋本 春 彦	E・3	173	65	千 歳	高 (東 京)
1	中川 正 三	N・3	163	60	浜 田	高 (島 根)
2	阿部 澄 夫	N・2	170	70	新 浜	高 (愛 媛)
3	小林 章	N・3	173	68	北 園	高 (東 京)
4	◎ 小福 留 德 昭	E・4	174	72	安 芸	高 (高 知)
5	福 藤 徹 郎	N・4	170	67	千 歳	高 (東 京)
6	戸石 寛 健	E・2	178	74	勝 山	高 (大 阪)
7	河原 村 和 一	N・4	177	73	小 原	高 (神 奈 川)
8	竹 大 裕	E・3	168	65	望 ヶ 原 丘	高 (神 奈 川)
9	城 石 一 之	E・3	173	67	福 岡	高 (福 岡)
10	岡 忠 志	E・4	168	64	海 城	高 (東 京)
11	柳 生 武 志	E・3	165	63	一 宮	高 (愛 知)
12	補 神 谷 洋 一 郎	N・3	165	60	向 ヶ 丘	高 (東 京)
〃	鈴 木 正 彦	E・3	173	69	浜 松 西	高 (静 岡)
〃	長谷川 雅 彦	N・2	175	74	春 日 部	高 (埼 玉)
〃	○ 井 上 武	N・4	171	60	福 岡	高 (福 岡)

出 漕 ク ル

日 本 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	添田秀男					
艇指揮	西尾有史	製・4	173	65	日 大 一 高	(東 京)
艇長	◎ 中丸篤松	漁・4	164	63	厚 岸 水 高	(北 海 道)
1	山正勝	製・4	160	60	城 西 高	(東 京)
2	今村竜七	増・2	162	56	燒 津 水 高	(静 岡)
3	今井節夫	増・4	168	59	コ 茅 高	(沖 繩)
4	今井康一	増・2	170	60	成 城 高	(東 京)
5	長峰俊治	製・3	172	64	日 大 三 高	(東 京)
6	吉永田津彦	漁・4	164	60	野 田 高	(千 葉)
7	佐々木正雄	増・3	165	71	城 北 高	(東 京)
8	兼子昭夫	増・3	161	65	江 戸 川 高	(東 京)
9	巽幸太郎	製・2	170	67	日 大 一 高	(東 京)
10	○ 光田三男	増・3	168	64	水 海 道 高	(茨 城)
11	中島朝祺	製・4	173	61	日 大 一 高	(東 京)
12	安斉田英明	漁・4	165	62	農 大 一 高	(神 奈 川)
補	野本誠一	漁・4	161	53	正 則 高	(東 京)
〃	上田泰昌	製・3	168	63	日 大 鶴 ヶ 岡 高	(東 京)
〃	岡本昌夫	増・3	169	62	日 大 豊 山 高	(東 京)
〃	望月徳郎	製・3	171	61	相 洋 高	(神 奈 川)
〃		増・2	165	65	燒 津 水 高	(静 岡)

長 崎 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	麻生幸則					
艇指揮	梅崎泰也	漁・3	165	60	西 南 学 院 高	(福 岡)
艇長	植木俊勝	漁・3	160	55	長 崎 西 高	(長 崎)
1	樽木野弘幸	漁・3	165	60	濟 々 高	(熊 本)
2	○ 富成征二	製・3	165	60	津 野 丘 高	(大 分)
3	寺元省彦	漁・3	164	75	山 崎 高	(岡 山)
4	池永村秀男	漁・3	164	58	尼 ヶ 崎 高	(兵 庫)
5	田黒田剛	漁・3	173	67	長 田 高	(兵 庫)
6	赤井護夫	漁・3	164	65	日 吉 ヶ 岡 高	(京 都)
7	李秀翼	漁・3	173	80	操 山 高	(岡 山)
8	押方秀翼	漁・3	179	73	若 松 高	(福 岡)
9	坂梨英昭	漁・3	176	66	鶴 見 ヶ 岡 高	(大 分)
10	○ 山本健修	漁・3	165	65	伝 習 館 高	(福 岡)
11	大石渡川二男	漁・3	173	60	長 崎 東 高	(長 崎)
12	◎ 大石村浩三	漁・3	167	60	武 雄 高	(佐 賀)
補	石村田修八	漁・3	158	56	串 木 野 高	(鹿 児 島)
〃	高木藤吉	漁・3	165	58	津 西 高	(三 重)
〃	首藤浩三	漁・3	177	65	長 崎 西 高	(長 崎)
〃		製・2	177	65	舞 鶴 高	(大 分)
〃		製・2	173	63	伝 習 館 高	(福 岡)
〃		漁・2	167	57	高 松 第 一 高	(香 川)

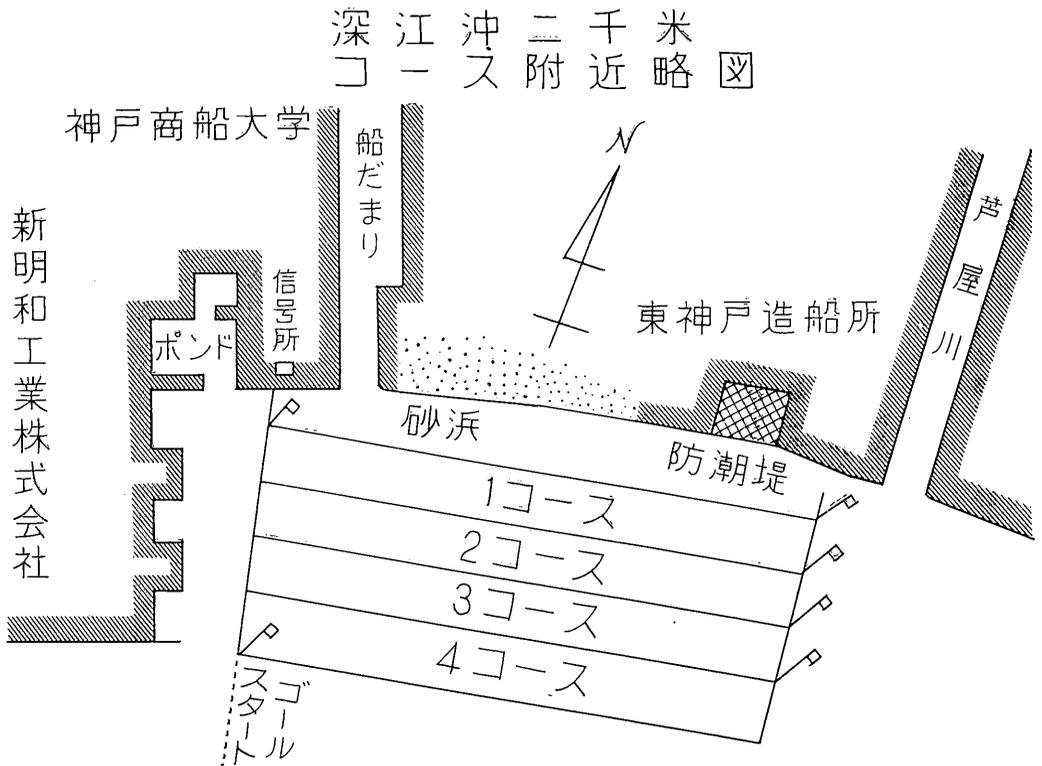
出 漕 ク ル ー

神 戸 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	西原義久					
艇指揮	樋口享弘	N・4	173	65	保原高	(福島)
艇長	高杉喜雄	E・4	158	60	朝日高	(岡山)
1	中島洋彦	E・2	169	68	水海道第一高	(茨城)
2	勝又昭彦	N・3	160	60	沼津東高	(静岡)
3	佐藤浩	E・2	170	67	浦和西高	(埼玉)
4	岡本洋三	N・3	169	61	淳心学院高	(兵庫)
5	矢田部尚三	E・3	177	75	神戸高	(兵庫)
6	西荒牧逸弘	N・3	177	68	旭日高	(大阪)
7	永戸圭介	N・2	173	70	宗像高	(福岡)
8	渡辺亮輔	N・3	170	63	桃山高	(京都)
9	寺田栄一	E・3	172	67	佐賀高	(佐賀)
10	大西典一	N・3	1 3	70	岸和田高	(大阪)
11	田中正	N・2	163	60	加古川東高	(兵庫)
12	田中持勝	E・3	163	58	天王寺高	(大阪)
補	○ 剣持勝彦	E・3	163	58	倉敷青陵高	(岡山)

成 績 一 覧

第1回	① 東京水産大学	② 東京商船大学	③ 神戸商船大学	(東京)
第2回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 東京商船大学	(神戸)
第3回	① 水産大学校	② 海上保安大学校	③ 東京水産大学	(呉)
第4回	① 神戸商船大学	② 海上保安大学校	③ 水産大学校	(横須賀)
第5回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 海上保安大学校	(神戸)
第6回	① 東京商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校	(館山)
第7回	① 東京水産大学	② 海上保安大学校	③ 神戸商船大学	(呉)
第8回	① 神戸商船大学	② 海上保安大学校	③ 東京商船大学	(館山)
第9回	①	②	③	(神戸)



レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは船艇同型であるのに対し、艇を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鍍張の木製でオール12本（各々長さ約4米40握りの直径8.2糎、重さ10乃至15斤である）マスト、セール等の艀装品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ艇尾より船首に向つて艀右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3、4～11、12番と続き、1、2番をBowmen、11、12番をStrokemen（整調）と称して櫂漕のピッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で、指揮号令を行つているのが艇指揮である。艇指揮は艇の全ての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以つてスタートし、スタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り（反時計回り）に回頭して帰つてくる即ち。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームづつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となつたチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のために、タイムレースでなく着順位である。ピッチ（1分間に漕ぐ回数）は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているで必ずしも一定ではなく、それぞれ特色のある漕法によるピッチを持つている。レース所要時間は10分余である。しかし、救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、その様な場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一腕といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダツシユ、回頭ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等たゆまぬ練習、シーマンシツプを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

審 判 規 則

- 1 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
- 2 スタート
 - 1 各艇は指定の時刻、コース順に従い、スタートラインに整列する。
 - 2 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイに着き用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する
 - 3 スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する
 - 4 スタート：頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
 - 3 審判長、審判員がスタートを不完全と認めた時は直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断。
 - 4 スタートに於ける号令前の飛出し、及び艇の事故によるスタートの遅速度は2回で失格である。
 - 5 回頭は左回頭（反時計回り）とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した場合、及び回頭旗に艇又はオールの一部でも接触した場合は失格である。
- 6 ゴール：艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし、順序は審判員が判定する。
- 7 同着の場合は追込艇の勝とする。
- 8 ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
- 9 各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤つて他の艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めたときは失格とする
- 10 レース中のコースに於ける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自からこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでない時もある。
- 11 レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する
- 12 オールは予備2本を積み自由に使用してよい。
- 13 補欠は2名以内自由に交替できる。
- 14 オールは流したままゴニルインして良い

M E M O

天候

風向

風速

波浪

時刻	種目	コース	校名	着順	タイム
09.00	開 会 式				
10.15	予選第1レース	1	3号 東水大 32	2	11 36 6
		2	5号 海技大 33	4	12 47 4
		3	4号 神船大 28	1	11 29 2
		4	6号 海保大 32	3	11 48 0
10.55	予選第2レース	1	3号 日大 32	3	12 03 8
		2	6号 長崎大 36	4	12 05 8
		3	4号 三重大 28	2	11 49 8
		4	5号 水校 32	1	11 37 1
11.35	予選第3レース	1	5号 東航大 28	3	11 56 8
		2	3号 防大 28	1	11 41 2
		3	6号 海防大	4	16 35 6
		4	4号 鹿大 32	2	11 42 1
11.50 ~ 13.00					
13.30	敗者復活レース	1	4号 三重大	4	11 56 6
		2	3号 鹿大	3	11 47 0
		3	6号 海保大	1	11 38 4
		4	5号 東水大	2	11 41 8
14.20	順位決定レース	1	3号 海技大	4	12 49 8
		2	6号 長大	2	12 03 8
		3	4号 東航大	1	11 44 6
		4	5号 日大	3	12 03 8
15.15	決勝レース	1	3号 海保大	4	11 52 2
		2	4号 神船大	1	11 34 8
		3	5号 水校	3	11 41 4
		4	6号 防大	2	11 40 0
15.45	閉 会 式				

祝 第9回全日本カッター競技大会

アイパー 美顔術

コールドパーマ

板東理髪店

三和市場西入口

ドライクリーニング

港ランドリー

灘区弓木町五丁目三

貴方のヘアスタイルは

西口理容室

白鷗寮裏門前

印刷・紙・文具

株式会社

ハシダ紙文具店

阪神深江駅南

TEL 芦屋 3297

麺類と焼肉

青葉

白鷗寮北

TEL 0972

タバコ・葉書・切手類

文具・菓子・日用品

牛乳・その他飲物各種

学生さんとおなじみの

安味商店

ムードあふれる

サントリーバー

アントレ

生田区北長狭通1の41

TEL 2168

喫茶

エル

阪神深江劇場横

TEA ROOM

ドニ

阪神深江電停山側

コンパの御用は

酒類・食料品

徳商店

白鷗寮西

三和市場内

TEL 8555

網焼のステーキ

名物のとんかつ

肉のシャブ・シャブ

Mou

神戸・生田前

別館もん(生田新道)
営業しています.....

お買物はとにかく安い

三和市場

東灘区本山町小路大町

白鷗寮西

TEL 7925